

コンテナヤードを見学する学生ら



世界とのつながり学ぶ

八戸港コンテナヤード見学 八学大生「見方変わった」

八戸学院大地域経営学部で国際関係論を専攻するゼミの学生が25日、八戸港コンテナヤードの多目的国際物流ターミナルを見学し、八戸港の機能やコンテナの役割、八戸と世界とのつながりなどに理解を深めた。

（出川しのぶ）

グローバル化などを一クレーンで荷下ろし学ぶ横田将志講師のゼミ生も、冷凍コンテナ置き場などを見て回った。2、3年生10人が、横田講師は「コンテナがなくて、今の暮らしは成り立たない」と、日八戸港運送の柳谷悟コナテナターミナル課長が案内し、作業の様子やコンテナの種類などを紹介した。

2年の川原歩士さん（19）は「八戸に対する見方が変わって、世界と関わる重要な役割がある街だ」と話した。